

環境調査結果のお知らせ

令和8年4月17日14時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

概況

検鏡の結果、魚類に有害とされるシュードシャットネラ・ベルキュローサが最高で1 cell/mL、ケラチウム属が3 cells/mL確認されました。また、主に麻痺性貝毒の原因種とされるアレキサンドリウム属が最高で9 cells/mL確認されました。当該プランクトンは、100 cells/mLに達すると二枚貝を毒化させる可能性がありますので、十分注意してください。

海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	珪藻	アレキサンドリウム 属	シュードシャットネラ・ ベルキュローサ	ケラチウム 属
A 中学校前 (0m) 【14:00】	0	21.1	29.0	10.4	17,100	0	0	0
	2	21.4	30.9	10.9	10,700	0	0	1
	5	19.9	32.0	10.3	2,350	1	0	3
	10	18.9	32.6	6.3	5,650	2	0	0
	底層	11	18.8	32.6	4.8	4,650	0	0
B 光松 (0m) 【14:22】	0	20.5	29.9	9.2	1,500	4	1	0
	2	20.1	31.3	9.0	1,600	9	0	0
	5	19.4	31.9	8.1	1,650	0	0	0
	10	18.7	32.7	6.4	500	0	0	0
	底層	15.5	17.8	33.2	3.6	350	0	0
C 大鹿 (0m) 【14:31】	0	20.5	29.7	9.3	-	2	0	0
	2	19.9	31.5	9.0	-	0	1	0
	5	19.4	31.9	7.7	-	4	0	0
	10	18.9	32.4	7.1	-	0	0	0
	底層	15.5	17.9	33.2	3.9	-	0	0
D 水試小割前 (0m) 【14:47】	0	19.7	31.3	8.1	-	0	0	0
	2	19.6	31.6	7.9	-	0	0	0
	5	19.1	32.1	6.8	-	0	0	0
	10	19.1	32.2	6.6	-	0	0	0
	底層	8	19.1	32.2	6.6	-	0	0

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—
ケラチウム属	魚類の餌食い悪化	100 cells/mL	—	—

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 中学校前

B: 光松

C: 大鹿

D: 水試小割前

珪藻
最大細胞密度



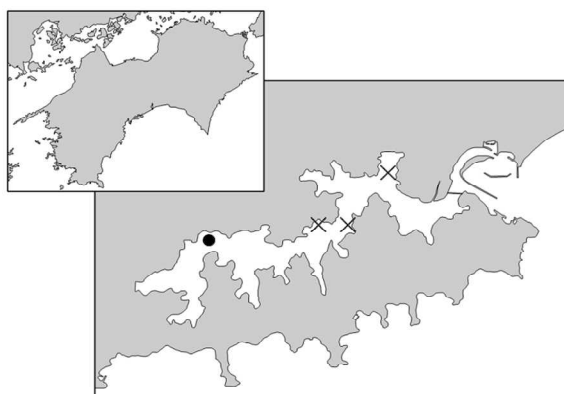
アレキサンドリウム属
最大細胞密度



シュードシャットネラ・ベルキュローサ
最大細胞密度



ケラチウム属
最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ
円のサイズが大きいほど、プランクトンの数が多いので注意してください。



注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。
基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

